

インターンシップの感想(または現場体験レポート)

東京学芸大学大学院教育学研究科 井〇一〇

この度、大学院のインターンシップとして5日間現場体験を行わせていただきました。大学院では「教育と福祉の連携」を研究テーマにし、特に連携による就労移行支援に注目しています。Be-NEXT は、中高生の利用者に特化した「就労準備型放課後等デイサービス」ということで大変興味を持ちました。

Be-NEXT では、中高生の利用者の皆様一人一人がまるで我が家にいるかのように自然体でくつろぎながら過ごし、スタッフの方々と家族のような関わりをしていました。中高生になると放デイの利用者は減っていく傾向がありますが、一方で Be-NEXT では卒業時に「Be-NEXT を辞めたくない」と話す利用者の方が多いという話を聞きました。それは、スタッフの方々との信頼関係がしっかりと築かれていて、利用者の皆様が居心地よく過ごせる場所になっているからこそだと思います。家庭・学校・Be-NEXT といったように、まさに Be-NEXT が利用者の皆様の第三の居場所「サードプレイス」の役割を果たしていると感じました。

また、就労準備型という事業所の特徴として、Beトレやグループウォークの実践が興味深かったです。学校では、作業学習という就労スキルを身に付ける学習がありますが、Be-NEXT でも就労を見据えて Beトレというトレーニングを行っていました。Beトレでは、作業の精度や作業にかかった時間を記録し、作業スキルの向上を図っていました。学校で一日頑張ってきた利用者の皆様の負担にならないような配慮や工夫もされていました。グループウォークとは、就労に向けて体力の向上を目指す取り組みであり、利用者の皆様がグループに別れて地域をウォーキングします。一緒に参加させていただきましたが、歩くペースが速く、皆しっかりとそのペースに付いて行って歩いていたので驚きました。就労先では体力が求められるので、就労を見据えた体力作りに着目した優れた実践であると感じました。

さらに、学校の進路担当の先生と連携して利用者の皆様の進路について一緒に考えたり、地域と連携して利用者の皆様の現場実習の場を Be-NEXT が独自に開拓し、利用者の皆様が地域で見学や実習を行ったりしているというお話を聞かせていただきました。これは、連携によって利用者の皆様の将来や地域での社会生活を考えた理想的な取り組みであると思いました。

体験中に、地域・事業所・学校・家庭との連携の取り組みがありました。それは、地域の他の事業所やお店と連携し、週末にフリーマーケットを開催するというイベントで、その準備過程や当日の様子を見ることができました。Be-NEXT では、パラコードというパラシュートで使われる素材を用いて、キーホルダーや携帯ストラップなどを商品として作りました。お客様が喜ぶものを利用者の方々とスタッフの方々が一緒になって考え、様々な種類の商品を作りあげていました。あまりに素敵な商品だったので、当日は何個も購入させていただきました。売り上げは利用者の方々のおやつになるとのことでした。自分たちで物を作っ

て売り、自分たちに利益が還元されるという、まさに「働く体験の場」になっていました。当日はいきいきと売り場で働く利用者の皆様の姿が大変印象的でした。就労意欲の向上につながる素晴らしい取り組みを見させていただきました。ぜひ、第2回、第3回の企画を期待しています。

今回のフリーマーケットでは、地域の他の事業所やお店が連携して、5つの場でスタンプラリーを行っていました。また、Be-NEXTが利用者の皆様の学校の先生に声を掛けて、多くの学校の先生が見に来られていました。利用者の皆様は学校の先生がお客様として来られてとても嬉しそうにしていました。当日はたくさんの保護者の方も訪れて、Be-NEXTの事業所は大盛況でした。地域・事業所・学校・家庭との連携の一つの形として、他に類を見ない理想的な実践だと思いました。これは、利用者の皆様がいきいきと自立した地域生活ができるよう自己実現の場を目指すというBe-NEXTの理念を体現した取り組みであり、利用者の皆様一人一人のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上につながる素晴らしい取り組みであると感動しました。

今回のインターンシップを通してたくさんのことを学ぶことができ、Be-NEXTの皆様には深く感謝申し上げます。微力ではありますが、今後は私もBe-NEXTの活動の一助になっていきたいと考えております。本当にありがとうございました。